



氏名：吉田 勇也（よしだ ゆうや）

所属：中央大学法学部法律学科

学年：B3

メールアドレス：a15.r5th@g.chuo-u.ac.jp

電話番号：080-3890-4780

【i.schoolへの志望動機】

初めまして、中央大学法学部法律学科3年の吉田勇也と申します。経営者である叔父の影響から、幼い頃から政治面・経済面共に「より良い日本を作りたい」との軸を元に様々な活動をして来ました。現在は法学部で経営や・国際関係学を学ぶ傍ら、非中央集権技術であるブロックチェーンの可能性に惹かれ、大学を休学し英国・ロンドンのFinTech企業にてブロックチェーン技術導入のアシスタントとしてインターンを行なっています。興味範囲は多岐に渡り、「どうすればより良い日本の未来を創造出来るか」を常に考え、人間生態学や行動経済学、世間論などの社会学を含めた学際的な研究を行なっています。第4次産業革命とも呼ばれる技術革新が進む現代において、人々が社会において幸福な人生を追求するためには、ソフト面・ハード面の両方からのイノベーションが必要だと考えています。ソフト面とは前述した、「人間中心のイノベーション」です。2017年度の調査で日本は主観的幸福度においてOECD諸国の最下位水準であり、ハード面での技術革新が直接的に人々の幸福に繋がるわけではないということが分かりました。そこで、i.schoolのワークショップを通じて、本当に人々が”幸福になれる”イノベーションとは何なのか、特に今年度のワークショップでは農業（第1次産業）やおもちゃ（広義の第2次産業）、東京発のサービス（第3次産業）と日本の産業を包括的に扱うことが出来るため、「どのような農業の体系が人々を幸福にするのか」や、サービスについてだと「本当におもてなしは人々を幸福にするのだろうか」という個人的なテーマを設定し、ソフト面におけるイノベーションの起こし方や問題解決のデザイン方法を学びたいと考えています。ハード面では、私が現在研究しているブロックチェーン技術を中心に添え、この技術をどう製品・サービスに適用できるかを考えたいと思っています。例えば、農業分野だと、ブロックチェーン技術を用いることで「生産・加工・流通・販売」の過程の追跡が可能になり、「食の安全性」の透明化が実現すると期待されます。また、空き家にブロックチェーン技術を活用すれば、人々がパーティや宿泊など使いたい時に空き家を訪れ、IoTを用いて簡単に決済まで出来てしまうといった新しいシェアリングエコノミーの形も考えられると思います。私はFinTechにおいて世界最先端を走る英国において様々なカンファレンスに参加し、実際に技術面も学んで来たため、ハード面の知識も元に議論に貢献することが出来ると思っています。特にこの分野では理系的分野の知識や芸術系のデザイン思考が役に立つのではないかと考えているため、i.schoolではこのような学際的な環境でさらにビジョンを深めていければと考えています。

以上より、i.schoolで”幸福”を生み出すイノベーションの創出方法と、ブロックチェーン技術を用いた革新的技術をどう製品・サービスに実装するかを受講生の皆さんと議論したいと考えています。

何卒、よろしくお願いいたします。

